

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成26年7月14日
【四半期会計期間】	第54期第1四半期（自平成26年3月1日至平成26年5月31日）
【会社名】	株式会社マルゼン
【英訳名】	MARUZEN CO.,LTD.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 渡邊 恵一
【本店の所在の場所】	東京都台東区根岸二丁目19番18号
【電話番号】	03(5603)7111(代表)
【事務連絡者氏名】	常務取締役管理本部長 萬實 房男
【最寄りの連絡場所】	東京都台東区根岸二丁目19番18号
【電話番号】	03(5603)7111(代表)
【事務連絡者氏名】	常務取締役管理本部長 萬實 房男
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第53期 第1四半期連結 累計期間	第54期 第1四半期連結 累計期間	第53期
会計期間	自平成25年3月1日 至平成25年5月31日	自平成26年3月1日 至平成26年5月31日	自平成25年3月1日 至平成26年2月28日
売上高 (千円)	11,485,296	11,599,761	42,185,415
経常利益 (千円)	1,320,201	1,326,718	4,171,288
四半期(当期)純利益 (千円)	744,661	757,146	2,350,957
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	861,901	816,684	2,564,715
純資産額 (千円)	22,198,310	24,343,645	23,732,353
総資産額 (千円)	38,620,017	41,173,057	40,212,271
1株当たり四半期(当期)純利益 金額 (円)	39.88	40.55	125.90
潜在株式調整後1株当たり四半期 (当期)純利益金額 (円)	-	-	-
自己資本比率 (%)	57.5	59.1	59.0

(注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載して
おりません。

2. 売上高には、消費税等は含んでおりません。

3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりま
せん。

2【事業の内容】

当第1四半期連結累計期間において、当社グループ(当社および当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要
な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第1四半期連結累計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。
また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。

2【経営上の重要な契約等】

当第1四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定または締結等はありません。

3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1)業績の概況

当第1四半期連結累計期間における我が国の経済は、政府による経済・財政政策を背景に、引き続き緩やかな回復傾向で推移いたしました。当社グループを取り巻く外食・中食産業、また製パン業界におきましても、高額商品がヒットするなど消費マインドに改善が見られましたが、日常における節約志向は今なお根強く、さらには消費税の増税や原材料価格の上昇、人手不足等、予断を許さない状況が続いております。

このような状況の中、当第1四半期連結累計期間は、スタート月である3月に消費税増税直前の駆け込み需要が相応にありましたが、4月以降は増税実施の影響等があり、売上高は115億99百万円（前年同期比1.0%増）となりました。また、営業利益は12億28百万円（同1.7%減）、経常利益は13億26百万円（同0.5%増）、四半期純利益は7億57百万円（同1.7%増）となりました。

セグメントの業績は次のとおりであります。

業務用厨房部門「業務用厨房機器製造販売業」

主たる事業の業務用厨房部門では、全国のあらゆる業種業態のお客様に対して、3,300機種もの豊富な自社オリジナル製品をベースに、ご提案営業や販促キャンペーン、イベント活動等の各種販促活動を実施してまいりました。また、お客様の安心安全と顧客満足度の向上を目的とした無料点検活動や保守契約等メンテナンスサービス体制の強化については、業績の向上につながるものとして継続して取り組んでまいりました。

なお、厨房部門では将来的に100カ所の販売事業所体制を目指しており、このたび平成26年3月に東京都北東部エリア強化のため足立営業所を開設いたしました。

以上の結果、売上高は110億52百万円（前年同期比1.1%増）、営業利益は13億43百万円（同1.0%減）となりました。

ベーカリー部門「ベーカリー機器製造販売業」

ベーカリー部門では、国内外の製パンメーカーに対する訪問活動はもとより、販路拡大を目的とした各種食品メーカーや東南アジア地域の製パンメーカーに対する新規開拓を進めてまいりましたが、売上高は4億6百万円（前年同期比2.8%減）となりました。利益については売上高の計画未達により、営業損失43百万円（前年同期は営業損失34百万円）となりました。

ビル賃貸部門「ビル賃貸業」

5物件を有する土地と資金の有効活用を目的としたビル賃貸部門の業績は計画通り推移し、売上高は1億47百万円（前年同期比0.2%増）、営業利益は98百万円（同2.4%増）となりました。

(2)財政状態

当第1四半期連結会計期間末の総資産残高は、前連結会計年度末に比べ9億60百万円増加の411億73百万円となりました。

資産の部は、流動資産において売掛金の回収が順調で現金及び預金の増加等により9億49百万円増加し、固定資産は投資有価証券の評価額の増加等により11百万円増加しました。

負債の部は、支払手形及び買掛金の増加等により前連結会計年度末に比べ3億49百万円増加の168億29百万円となりました。

純資産の部は、四半期純利益の計上により利益剰余金が増加したこと等で、前連結会計年度末に比べ6億11百万円増加し243億43百万円となりました。

(3)事業上及び財務上の対処すべき課題

当第1四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

(4)研究開発活動

当第1四半期連結累計期間におけるグループ全体の研究開発活動の金額は90百万円であります。

なお、当第1四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	65,000,000
計	65,000,000

【発行済株式】

種類	第1四半期会計期間末現在発行数(株) (平成26年5月31日)	提出日現在発行数(株) (平成26年7月14日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	19,780,000	19,780,000	(株)東京証券取引所 市場第二部	単元株式数 1,000株
計	19,780,000	19,780,000	-	-

(2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総 数増減数 (株)	発行済株式総 数残高(株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金増 減額(千円)	資本準備金残 高(千円)
平成26年3月1日～ 平成26年5月31日	-	19,780,000	-	3,164,950	-	2,494,610

(6)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第1四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7)【議決権の状況】

当第1四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（平成26年2月28日）に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

平成26年5月31日現在

区分	株式数（株）	議決権の数（個）	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式（自己株式等）	-	-	-
議決権制限株式（その他）	-	-	-
完全議決権株式（自己株式等）	普通株式 1,107,000	-	-
完全議決権株式（その他）	普通株式18,663,000	18,663	-
単元未満株式	普通株式 10,000	-	-
発行済株式総数	19,780,000	-	-
総株主の議決権	-	18,663	-

【自己株式等】

平成26年5月31日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数（株）	他人名義所有株式数（株）	所有株式数の合計（株）	発行済株式総数に対する所有株式数の割合（％）
株式会社マルゼン	東京都台東区根岸 2丁目19-18	1,107,000	-	1,107,000	5.59
計	-	1,107,000	-	1,107,000	5.59

2【役員の状況】

該当事項はありません。

第4【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第1四半期連結会計期間（平成26年3月1日から平成26年5月31日まで）および第1四半期連結累計期間（平成26年3月1日から平成26年5月31日まで）に係る四半期連結財務諸表について、有限責任監査法人トーマツによる四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】

(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成26年2月28日)	当第1四半期連結会計期間 (平成26年5月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	11,867,479	13,246,027
受取手形及び売掛金	7,991,444	7,593,972
商品及び製品	2,350,685	2,081,312
仕掛品	252,286	354,323
原材料及び貯蔵品	785,741	815,079
その他	580,062	686,275
貸倒引当金	5,164	4,993
流動資産合計	23,822,534	24,771,996
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	15,083,850	15,087,490
減価償却累計額	8,396,792	8,487,590
建物及び構築物(純額)	6,687,058	6,599,900
土地	6,839,741	6,839,741
その他	6,569,406	6,654,069
減価償却累計額	5,465,914	5,523,228
その他(純額)	1,103,491	1,130,840
有形固定資産合計	14,630,291	14,570,482
無形固定資産	40,794	36,700
投資その他の資産	2,171,650	2,179,377
固定資産合計	16,839,736	16,401,060
資産合計	40,212,271	41,173,057

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成26年2月28日)	当第1四半期連結会計期間 (平成26年5月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	9,225,068	9,440,709
短期借入金	1,800,000	1,800,000
未払法人税等	964,794	725,944
賞与引当金	577,000	311,000
役員賞与引当金	46,952	11,899
その他	1,613,774	2,298,799
流動負債合計	14,227,589	14,588,352
固定負債		
退職給付引当金	1,363,423	1,393,098
役員退職慰労引当金	232,500	231,000
その他	656,405	616,961
固定負債合計	2,252,328	2,241,059
負債合計	16,479,917	16,829,412
純資産の部		
株主資本		
資本金	3,164,950	3,164,950
資本剰余金	2,494,610	2,494,610
利益剰余金	22,797,708	23,349,463
自己株式	596,870	596,870
株主資本合計	27,860,398	28,412,153
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	456,482	516,019
土地再評価差額金	4,584,527	4,584,527
その他の包括利益累計額合計	4,128,045	4,068,507
純資産合計	23,732,353	24,343,645
負債純資産合計	40,212,271	41,173,057

(2)【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第1四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成25年3月1日 至平成25年5月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成26年3月1日 至平成26年5月31日)
売上高	11,485,296	11,599,761
売上原価	7,901,825	7,982,031
売上総利益	3,583,471	3,617,730
販売費及び一般管理費	2,333,410	2,389,013
営業利益	1,250,061	1,228,716
営業外収益		
受取利息	2,068	1,996
固定資産賃貸料	7,076	7,434
仕入割引	29,881	35,919
作業くず売却収入	29,164	32,151
その他	6,273	24,723
営業外収益合計	74,463	102,226
営業外費用		
支払利息	2,819	2,363
売上割引	1,496	1,416
その他	6	444
営業外費用合計	4,323	4,224
経常利益	1,320,201	1,326,718
特別利益		
固定資産売却益	6,321	3,329
特別利益合計	6,321	3,329
特別損失		
固定資産除却損	6	77
特別損失合計	6	77
税金等調整前四半期純利益	1,326,516	1,329,971
法人税、住民税及び事業税	711,448	702,878
法人税等調整額	129,593	130,054
法人税等合計	581,855	572,824
少数株主損益調整前四半期純利益	744,661	757,146
四半期純利益	744,661	757,146

【四半期連結包括利益計算書】
【第1四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成25年3月1日 至平成25年5月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成26年3月1日 至平成26年5月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益	744,661	757,146
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	117,240	59,537
その他の包括利益合計	117,240	59,537
四半期包括利益	861,901	816,684
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	861,901	816,684
少数株主に係る四半期包括利益	-	-

【注記事項】

(継続企業の前提に関する事項)

該当事項はありません。

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

該当事項はありません。

(会計上の見積りの変更)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理)

該当事項はありません。

(四半期連結貸借対照表関係)

1 四半期連結会計期間末日満期手形

四半期連結会計期間末日満期手形の会計処理については、当四半期連結会計期間末日が金融機関の休日でしたが、満期日に決済が行われたものとして処理しております。当四半期連結会計期間末日満期手形の金額は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成26年2月28日)	当第1四半期連結会計期間 (平成26年5月31日)
受取手形	- 千円	181,480千円
支払手形	-	1,404,239
設備関係支払手形	-	14,925

なお、設備関係支払手形は、流動負債の「その他」に含まれております。

2 資産の金額から直接控除している貸倒引当金の額

	前連結会計年度 (平成26年2月28日)	当第1四半期連結会計期間 (平成26年5月31日)
投資その他の資産	38,802千円	38,622千円

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費(無形固定資産に係る償却費を含む。)は、次のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自平成25年3月1日 至平成25年5月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成26年3月1日 至平成26年5月31日)
減価償却費	168,344千円	174,458千円

(株主資本等関係)

前第1四半期連結累計期間(自平成25年3月1日至平成25年5月31日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成25年5月23日 定時株主総会	普通株式	186,729	10.00	平成25年2月28日	平成25年5月24日	利益剰余金

当第1四半期連結累計期間(自平成26年3月1日至平成26年5月31日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成26年5月27日 定時株主総会	普通株式	205,392	11.00	平成26年2月28日	平成26年5月28日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第1四半期連結累計期間(自平成25年3月1日至平成25年5月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				調整額 (注)1	四半期連結損 益計算書計上 額 (注)2
	業務用厨房機 器製造販売業	ベーカリー機 器製造販売業	ビル賃貸業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	10,932,509	405,050	147,736	11,485,296	-	11,485,296
セグメント間の内部売上 高又は振替高	-	13,624	-	13,624	13,624	-
計	10,932,509	418,674	147,736	11,498,921	13,624	11,485,296
セグメント利益又は損失 ()	1,357,727	34,024	96,084	1,419,788	169,727	1,250,061

(注)1. セグメント利益又は損失()の調整額 169,727千円には、セグメント間取引消去30,000千円および各報告セグメントに配分していない全社費用 199,727千円が含まれております。なお、全社費用の主な内容については、報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益又は損失()は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

当第1四半期連結累計期間(自平成26年3月1日至平成26年5月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				調整額 (注)1	四半期連結損 益計算書計上 額 (注)2
	業務用厨房機 器製造販売業	ベーカリー機 器製造販売業	ビル賃貸業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	11,052,645	399,131	147,984	11,599,761	-	11,599,761
セグメント間の内部売上 高又は振替高	-	7,623	-	7,623	7,623	-
計	11,052,645	406,754	147,984	11,607,384	7,623	11,599,761
セグメント利益又は損失 ()	1,343,891	43,523	98,397	1,398,764	170,048	1,228,716

(注)1. セグメント利益又は損失()の調整額 170,048千円には、セグメント間取引消去30,000千円および各報告セグメントに配分していない全社費用 200,048千円が含まれております。なお、全社費用の主な内容については、報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益又は損失()は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(金融商品関係)

四半期連結財務諸表規則第17条の2の規定に基づき、注記を省略しております。

(有価証券関係)

四半期連結財務諸表規則第17条の2の規定に基づき、注記を省略しております。

(デリバティブ取引関係)

四半期連結財務諸表規則第17条の2の規定に基づき、注記を省略しております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額および算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自平成25年3月1日 至平成25年5月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成26年3月1日 至平成26年5月31日)
1株当たり四半期純利益金額	39円88銭	40円55銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額(千円)	744,661	757,146
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る四半期純利益金額(千円)	744,661	757,146
普通株式の期中平均株式数(千株)	18,673	18,672

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

該当事項はありません。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成26年7月11日

株式会社マルゼン

取締役会 御中

有限責任監査法人トーマツ

指定有限責任
社員
業務執行社員 公認会計士 御子柴 顯 印

指定有限責任
社員
業務執行社員 公認会計士 酒井 博康 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社マルゼンの平成26年3月1日から平成27年2月28日までの連結会計年度の第1四半期連結会計期間（平成26年3月1日から平成26年5月31日まで）及び第1四半期連結累計期間（平成26年3月1日から平成26年5月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社マルゼン及び連結子会社の平成26年5月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第1四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- (注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。
2. XBR Lデータは四半期レビューの対象には含まれていません。